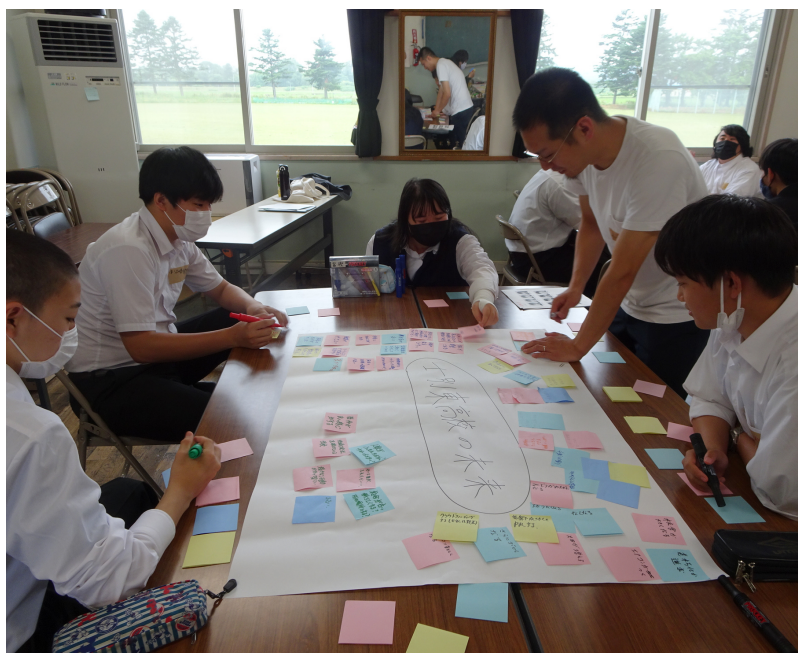


food bank Activity report 23.10.6



社会課題を 自分ごと化する

社会には様々な課題があり、自分ひとりの力ではどうにもできないように思えるものばかりです。『誰かがやってくれる』という気持ちより、『自分にできること』を探す人間でありたい。士別東高校では、地域の方々と協力して、社会課題と向き合います。一人だと早く進むことができますが、みんなで行けば遠くまで進むことができるから。思いやりの輪が世界中に広がりますように。

思いやりは身近にあった



フードバンク活動を通して、困っている人が沢山いることを知りました。一方で、『助けたいと思っている人』も沢山いることに気づかされました。

今後の決意

士別東高校は、特色である少人数と豊かな自然、温かい地域の方々との絆を生かしてフードバンク活動に取り組めます。特定の企業や農家、学校が単独で取り組むのではなく、ネットワークが構築され、困窮者の支援が継続されるように工夫します。この活動は、地域の方々のご協力があって成り立っています。

フードバンクとは

まだ安全に食べられるのにもかかわらず、規格外品として廃棄される食品を、必要している施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動のことをフードバンクといいます。食品ロス削減のみならず、生活困窮者支援の観点からも、その役割の重要性が高まっている活動です。



PROCESS

士別東高校 × フードバンク

フードバンク用の畑を開墾・さつまいも栽培

昨年度は上士別町の五十嵐農場の作物のみを使ってフードバンク活動を行いました。今年度は自分たちで作物を育て、フードバンク団体に送ります。フードバンク用の畑を開墾し、さつまいもを植えました。土壌改良のノウハウや苗の植え方は上川農業改良普及センター士別支所の方々に教えていただきました。



『対話』を通して多様な価値観に触れる

畑の世話を継続しながら、地域の方々と対話を重ねてきました。まちづくりを語り合う会と称して地域住民と語り、士別青年会議所と商品開発を行い、フードバンクを実際に取り組んでいる団体から講話を受けたりと、知識と理解を深めました。様々な立場の方々から、経験に基づいたお話を聞くことはとても貴重な時間です。



フードバンク団体へ作物を発送

五十嵐農場の作物を選果し、フードバンク団体に送りました。本校のさつまいもは10月中旬に掘り起こして発送します。送り先は、シングルマザーや就労許可のない外国人などを支援する団体です。身近にも困っている人や孤食の子ども達がいることを知ったので、地域の子ども食堂などにも作物を寄付したいと思っています。



販売会に向けた準備

作物を送るための送料や募金するための資金を集めるために、販売会を行います。株式会社西條が販売スペースを提供してくださったので、市内農家やJA北ひびきからご提供いただいた作物や、高校生が作ったかぼちゃバタージャムなどを販売します。ジャムは地域の方からご提供いただいた素材で作る思いやりの詰まった一品です。



協力 五十嵐農場 じゅーみーふぁーむ 上川農業改良普及センター士別支所 士別青年会議所
峯田牧場 日本甜菜製糖（株）士別製糖所 株式会社西條 JA北ひびき 地域の方々

